

# 行政視察報告書

この度、福岡県北九州市を視察した概要について、別紙のとおりご報告いたします。

資料その他については、事務局に保管してありますので、ご高覧ください。

平成29年10月3日

## 総務文教常任委員会

委員長	高橋 聖悟
副委員長	立身万千子
委員	菅原 正志
委員	奥山 豊和
委員	本間 利博
委員	佐藤 忠久
委員	寿松木 孝
委員	遠藤 忠裕

横手市議会議長 佐藤 忠久 様

# 総務文教常任委員会 行政視察報告書

## ◎福岡県北九州市：株式会社 北九州家守舎（7月12日訪問）

### 《会社の概要》

平成24年4月に創業。北九州市小倉北区を中心とした遊休不動産の活用事業を通して、行政と連携して街の再生を手掛けている。また、継続的な事業運営を手掛けられる人材育成「リノベーションスクール」にも取り組んでおり、リノベーションスクール受講生は全国800人に及び、各地で同様の取り組みを実践している。

### 調査事項 まちづくりリノベーション事業について

#### 《視察の目的》

遊休不動産を再び商業施設として再生するための手法を研修するとともに、実際の再生建物の物件を視察し、地域価値向上のための仕掛けづくりへのヒントを模索する。

#### (1)社名「家守」の由来

江戸時代、長屋の大家を「家守」と呼び、借地管理、家賃徴収、店子（長屋の住人）の面倒など、地区のマネージャー的な雑事を行っていた。株式会社北九州家守舎は現代版家守をめざし、行政、地区住民等と連携して建物管理や入居者支援等を通じて総合的な地域づくりを行うために設立された。

#### (2)空店舗の増加と地価の下落

北九州市でも2000年（平成12年）頃から2010年（平成22年）にかけ、リーマンショックなどの影響からテナントの撤退が相次ぎ、空き店舗が増加していた。中心地である小倉北区の地価（路線価）も4分の1まで下落し、地域の疲弊が顕著になっていた。

#### (3)「小倉家守構想」は実効性のある組織の立ち上げからスタート

2010年（平成22年）、東京神田エリアで行われていたアフタヌーンソサエティ社の地域再生の成功事例から、仕掛人だった清水義次氏を北九州市が招いて「小倉家守構想」の検討委員会が立ち上がった。構成メンバーは、従来にありがちだった権威的な人は選任せず、地域愛に富んだ不動産オーナーや、若手でフットワークの軽い大学教授、街の情報が集まるキーマンの人物など自らが実際に動けるような人材を集めた。



事業の紹介をしていただいた、代表取締役の遠矢氏

2011年に構想が発表され、遊休不動産の再生（リノベーション）により、面白い人材と新しい街のコンテンツを集積して、小倉中心部を雇用創出エンジンに変えようとする仕掛けづくりをすることをコンセプトにして構想は始まった。

#### (4)人材を掘り起こす「リノベーションスクール」

人材を集める試みとして役割を果たしたのがリノベーションスクールだった。これは、空物件のほか、あまりお金をかけたくないというオーナーの意向がある物件、活用のノウハウをオーナーが持たない物件などをリノベーションスクールの題材として取り上げ、全国から集まったスクール生（技術職、デザイナー、地方議員、自治体職員、学生など）8～10人でユニットを作り、その中に2人のユニットマスターと呼ばれる講師が付きながら、活用のプランを組み立てていく。5～6ユニットが3泊4日でプランを立て、不動産オーナーにプレゼンテーションをして、マッチングが出来れば具体的な事業化に向けて進むというもの。

運営は不動産オーナーのほか、エリア内のキーマン、スクールの元受講生などがチームになって、不動産物件そのものではなく、そのエリアをどう発展させていくかを考えて実施している。

まちづくり手法のカリキュラムの受講も兼ねるため実践的であり、これまで800人を超える受講生が誕生し全国で活躍している。



#### (5)最初は1件も実現しなかった ⇒ 会社設立のきっかけになる

最初のリノベーションスクールでは1件も提案が実現しなかった。理由は事業化する母体に実績がなく、不動産オーナーに投資をさせるだけの信用がなかったためだった。そのため、建築業と飲食業の2人の経営者が、家守構想の委員だった大学教授などを巻き込み、資本金50万円で株式会社北九州家守舎を設立した。

#### (6)主なりノベーション物件と再生手法

【Mercato（メルカート）】小倉家守構想で再生した最初の物件。もともと雑居ビルだったが、老朽化が進み維持が困難になっていた。若者をターゲットにフロアを個割に区画して借りやすい料金に設定して事業者を募るという提案にオーナーが賛同。入居できる人は『何かを創りだせる人』、『情報発信ができる人』に限定した。集め方は情報が集まるキーマンを活用。



新しいことをやりたい志のある人にピンポイントで声をかけた。ある程度の入居者の目途が立った段階で説明会を実施し、負担できる賃料を個別に確認して、その合計賃料から改装等につけられる費用を算出後、区割りやスプリンクラーなどの必要な改装を行い10業者に入居してもらった。物件の再生は成功し、この成功が他の物件を手がけられるきっかけになった。



【<sup>ミカゲ</sup>MIKAGE1881】かつて和食レストランが入っていたビル5階の物件。それまで15年間放置されていたが、家守舎が借りる形でシェアオフィスとして再生した。原資は家守舎の役員と賛同者からの投資により捻出。入居者はあらかじめ目星を付けてから説明会を実施。その中でもコミュニティ運営に批判的だったり、ただ賃料が安ければよいという考えの入居希望者は除外した。入居後も和を乱すような入居者には退去してもらっている。

【<sup>みきや</sup>三木屋】通りに面するビル群の間に残ってしまった空家の物件。一部屋根が落ちるほど朽ちていたが、屋根が落ちた部分は取り壊し、構造的に使える建物の部分をレンタルスペースとして再生した。運営も家守舎が請負い、原資は全てオーナーが負担した。その後オーナー自らがレンタルスペースからカフェの経営に切り替えたところ、人気のカフェになり、2店舗目を熊本に出店するほど成功した。



【<sup>クッチーナ ディ トリヨン</sup>Cucina di Toriyon】火事で焼失したビルの跡地を再生。オーナーが高齢で、新しいビルを建てても回収の見込みが立たないことから、少ない投資でも街の価値が下がらないようなアイデアを考えた。(安易に駐車場にしてしまうと街の価値は下がっていく)

人が集まれる場所にするため、プレハブ店舗のフルオープンカフェとして再生した。



投資の取り組みとして、商店街組合を母体とした「鳥町ストリートアライアンス」という株式会社を立ち上げ、商店街に変化をもたらす際意思決定を早める組織を作った。土地オーナーから鳥町ストリートアライアンス社が土地を借り、それを家守舎が賃料プラス売り上げ歩合を支払う定期借家契約をして運用することで、家守舎、ストリートアライアンス社の双方が融資を受けられることになり、資金を得やすくなった。

【ホラヤ(タンガテーブル)】300坪の広いフロアスペースにゲストハウスと宿泊設備を整備。面積が広く、非常に多額のコストを要する事業だったが、家守舎役員と賛同者へ投資を呼びかけ資金を調達。その資金で家守舎を増資し、特別目的会社である「株式会社 TangaTable (タンガテーブル)」を家守舎、設計会社、プランニング会社、ビルオーナーと共に設立。このことにより、金融機関の信用が得られ、金融機関とMINTO<sup>ミント</sup>機構(民間都市開発推進機構)の双方から融資を受けられたため事業化が実現した。



大人数を収容できるゲストハウス



インバウンド客向けの低価格宿泊所

## (7)行政は事業へのサポート役

事業の推進にあたっては行政からの補助金等は一切ない。しかし行政がリノベーション事業は市の発展に資するという後押しをしてくれることで、信用保証協会が優先的な審査をしてくれるようになってきた。また、市役所ではサポート体制を整えており、建物の用途変更や建築確認、消防等の様々な部署にまたがる手続きに対して窓口の担当があらかじめ関係部署に話を通しておくなど、手続きがスムーズに進むようにサポートしてもらっているとのことだった。

## (8)計画的な事業展開

家守舎自らが資金調達のために融資を受けることも多いが、計画的に返済ができているとのこと。理由は事業化にあたっては、まず入居してくれる事業者を集めて、スタートの目途がついてから融資を受けており、事業化のための事前準備を十分に行っているためである。

## (9)24年ぶりに地価が上昇

小倉北区は2017年、平均2.9%公示地価が上昇した。さらに家守舎のリノベーション物件が集中する魚町銀天街は4.9%も上昇した地点も出た。家守舎では人が集積したことの成果が出てきていると分析していた。

## (10)事業におけるポイント

- ①人が一番大事。特に情報が集まる街のキーマンを探すこと。
- ②エリアの価値を上げる実効性を高めるため、ある程度コンパクトなエリアに物件を集めることになる。これは行政では取りにくい手法であり、民間だからできることである。

- ③行政が確固たる政策として決めてくれることで、民間は動きやすくなる。
- ④補助金は事業単体ではなく、事業を進めるためのきっかけ（人材の招へいなど）に投入する。補助金依存の事業を作らないこと。
- ⑤事業の成功は建設の資金と、維持管理までをしっかりと見極めた計画ができているかに尽きる。

【各委員の所感】

別添のとおり。

## ◎福岡県北九州市：北九州市漫画ミュージアム（7月13日訪問）

### 《施設の概要》

平成24年に開館した北九州市の直営施設。名誉館長は「銀河鉄道999」などの作者である松本零士氏。小倉駅前の商業ビル内に施設を擁している。同市からは、わたせせいぞう氏、北条司氏など多数の漫画家が輩出されており、その漫画資料の保存展示を行うほか、漫画ソムリエの配置や漫画を実際に描くことができる体験コーナーなど、特徴的なイベントの企画や展示方法が注目されており、九州地方の漫画文化の発信拠点である。

### 調査事項 施設運営及び「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業（文化庁補助事業）」を活用した取り組みについて

#### 《視察の目的》

漫画資料の展示や、来場者を楽しませる手法などの施設運営のほか、平成29年度に文化庁の「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」の採択を受け、今後同館を中心に5年間で5億円の事業を展開することから、その取り組み内容などを視察し、リニューアル休業中である増田まんが美術館のオープン後の運営に向けた参考とする。

#### (1)漫画の芸術的価値を発信

漫画に美術的・芸術的価値を見出す研究は全国的にも始まったばかり。確立された研究成果のない中で公営の博物館としてどのような役割を担っていくか、市民に対してどのようにアプローチしていくのが課題だったが、先行していた増田まんが美術館の取り組みは参考になったとのこと。



ご説明いただいた事務局長の中原氏（右）と  
専門研究員の表氏（右から二人目）



小倉駅の遊歩道にはキャプテンハーロックなど  
松本零士氏の作品キャラクターの像が並ぶ

## (2)民間所有の物件に入居

漫画ミュージアムは、小倉駅前にある民間不動産会社が所有する建物の5、6階に入居している。これは、オーナーである不動産会社の施設運用の意向とマッチングしたため実現した。そのため、施設の建設コストは要しなかったが、収蔵・展示設備の整備にはかなりの費用を要したとのこと。また、民間物件の中に公の施設が入る事例は珍しく、準備手続きには相当の時間を要したとのことだった。



↑ 小倉駅に隣接する立地の良い商業ビルに入居



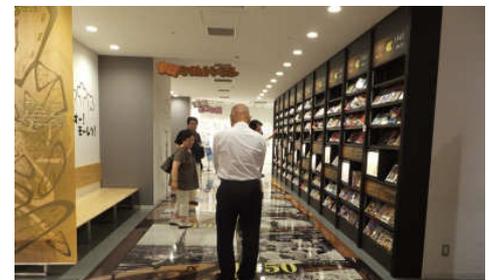
ビル1棟全てがマンガ・アニメ・ホビーなどサブカルチャー関連のテナントで構成される →

## (3)コンセプトは「漫画文化を生かした文化振興の推進」

ミュージアムは、「見る（展示機能）」、「読む（閲覧機能）」、「描く（体験、育成、交流機能）」の3つのコンテンツを柱にして構成。子供には『漫画を通じて社会を知ってもらう場所』になれるような工夫をしているとのこと。

### ①「見る（展示機能）」

何度来ても飽きない工夫 → 常設展示などは変化がないともう一度来る人は少なくなってしまうことから、漫画の歴史などの「基礎的展示」は残しつつ、市ゆかりの漫画家を紹介したり、九州・四国地方の漫画家を競わせる「海峡マンガ合戦」や漫画、アニメをツールとして新しい展開を見せている作品（アニメ映画など）の紹介など、常設展示に動きを持たせることにより、リピーターに常に変化を提供し続ける工夫をしているとのこと。



常に変化し続ける常設展示場

魅力ある企画展の苦勞と課題 → 年4回程度大型の企画展を実施している。企画展の課題は企画が終了してみないと評価が難しいことである。著名な漫画家の企画であっても地元市民に受け入れられるとは限らない。また、集客力のある企画は「買い取り」になることが多いため、コストが非常に多額になることも課題。一方、地元の美術館でありながら地元とは

関係のない企画展ばかりで良いのかというジレンマも抱えている。しかし所縁の漫画家の企画展の場合、ほとんどが「自主企画」となるためコストは下がることが多いが、一から組み立てなければならないため、学芸員に非常に負担がかかる。限られた予算と人員を有効活用できる様に「買い取り」と「自主企画」のバランスを取りながらも、他の漫画系の美術館とともに連携して取り組んでいくことが、今後非常に重要になってくるとのことだった。



原画と完成版の原稿との見比べができる企画展



パーティーションで自在に空間を仕切れるように設計された展示室

## ②「読む（閲覧機能）」

蔵書の配置に工夫 → 館内には5万冊の漫画を揃え、自由に閲覧できるようにしている。工夫として、棚の上には大人向けの表現の強い漫画、下の棚には子供向けの漫画を配置するなどして、漫画の種類に応じて閲覧年齢をコントロールしているとのこと。

「マンガソムリエ」を配置 → 土曜・日曜には、司書資格のある漫画ソムリエが配置される。ソムリエは、好みに合った漫画の紹介や問い合わせに応じてくれる。漫画分野の司書養成カリキュラムは存在しないので、担当司書は現場で試行錯誤しながらサービスの手法を磨いているとのこと。



配置に工夫がされた蔵書棚



司書資格のある「マンガソムリエ」がサポート



図書館のような広い閲覧スペース

### ③「描く（体験・育成・交流機能）」

本格的な漫画が「描ける」→週末に予約なしで素人でも実際の漫画制作で行われている技術を体験できるコーナーを設けている。また、予約制で高度な技法を学ぶことができるマンガスクールも行っている。また、プロ漫画家を招いて話を聴くワークショップも実施しているとのこと。

多様な組み合わせで楽しませる「交流事業」→企画展に合わせて実施しており、例えばグルメ漫画家の作品と地元産ブランドの食材を合わせて試食会やトークショーを実施するなど、漫画と関連する何かを組み合わせた事業を行っている。



自分が描いた作品が展示されるイベントコーナー

### (4)これからの展開

「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」の活用 → 文化庁の補助事業を活用して、漫画で生計を立てられる人材育成と雇用を創出してまちづくりを進めていく。

インバウンドへの取り組み → 東京よりアジア圏に近い地理的強みを生かして、特定の国だけではなくアジア圏全体を視野に入れた連携を強化する。

他の漫画系美術館との連携 → 他の地方の漫画系美術館との共同展や資料収集・保存の連携を深める。地方がそれぞれのカラーを生かし、協力しながら賑わいを作ることが地方創生の姿にもつながると考えているとのことだった。

#### 【各委員の所感】

別添のとおり。

以上、報告いたします。

## 総務文教常任委員会 行政視察「所感」

**1 日目** 平成29年7月12日（水）北九州家守舎  
調査事項：まちづくりリノベーション事業について

**2 日目** 平成29年7月13日（木）北九州漫画ミュージアム  
調査事項：施設運営及び「先進的文化芸術創造活用拠点事業」を活用した  
取り組みについて

### 1、高橋 聖悟 委員長

**1 日目** まちづくりリノベーション事業については、横手市においても手がけられてはいるものの、それは単発であり、エリアの価値を高めるという概念のリノベーションにはなっておらず、全体論としての効果波及はまだ薄い。これは、新たなまちづくりの手法であり、一気に加速度的とはいかないとしても、期待値が大きく、遊休不動産、商店街の再生へと今の行政が抱えている悩みの解決へと導くものでもあることから、まちづくりを所管する我々委員会としても押さえておくべきものとして、キーワード探しに北九州家守舎を訪れた。

そのようなことで、頂いてきた5つのポイントを参考にしながら横手の現状と照らし合わせ、まちづくりの成功のみならず、北九州市でもあった地価の上昇等の別部分での効果を求めつつ今回の見聞を質問等に活かし、行政と対話していきたいと思った。

**2 日目** 増田まんが美術館は、先進的と他方より見られてはいるが、今後の構想や運営についての議論が単一部署で完結している傾向があり、期待度は高いものの、高レベルでのまんが美術館の特徴が見られない。そんなことから、去年は京都マンガミュージアム、今回は北九州市漫画ミュージアムを視察したところである。

北九州市のミュージアムは、MICE推進課と連携し、動いてきたということで展示のみならず、誘客、立地、協働など多くのパーツを重ねて完成させている。縦割りではいかないと事案であると思うが故に、北九州市の手法は、横手の部局横断を促す意味でも参考になったところである。

### 2、立身 万千子 副委員長

**1 日目** 7月12日、約40年ぶりに私は北九州小倉の地を踏んだ。当時は隣の戸畑区が新日鉄の城下町として4～5階建ての社宅が林立しており、小倉北区は小倉城のお膝元ながら、商業で栄えていた記憶がある。あの頃の<sup>たんが</sup>旦過市場は、山国育ちの自分にとっては活きの良い魚が珍しく、切り身ではない一本のサバを「刺身にしちやり！」とぶっきらぼうに魚屋さんに頼んでさばいてもらうおばちゃん達のオバタリアンぶりにびっくりしている私が出た。威勢のいい声が響きわたり活みなぎるお店がそろっていた。

それが今は…、古くなったビルを、どう蘇らせるか？…。このテーマに真剣に取り組む地元の人たち、それも若い世代が江戸時代の「家守」を再生させようと立ち上がっていたことに感銘を受けた。紆余曲折はあっても、地域愛に富んだ不動産オーナー

の存在や地元にある大学の専門家などが実効性のある組織を立ち上げたこと、地域の中で規制を限りなく取り払って起業を後押ししていること、これによって金融機関の信用を得たことがスケールの大きな事業を進めているカギなのだろうと感じた。そして、今や遊休不動産の再生＝リノベーションの学校をつくり、遠く横手市からもスクール生が学ぶという全国に開放して「まちづくり」を展開する発信地になってくれていることに感謝する。

## **2 日目**

7月13日は、小倉駅から直行できる商業ビル内に、市直営の施設があることに、まず驚いた。民間の建物に公が入居して運営する方法は、漫画ミュージアムのみならず今後の施設管理運営を進める上で、考慮すべきものになるだろう。FM計画を実行する全国の自治体の宿題だと思った。

入ってすぐ、等身大のフィギュアがあり、記念写真をとることができる。単なる展示だけではない、遊びの要素がふんだんにあることは学ぶべきだと思う。

展示機能にしても、ルーティーンとなる、漫画の歴史や地元ゆかりの漫画家の紹介だけではなく、年4回程度、大型の企画展を実施すること。スタッフの苦勞・負担は並大抵ではないと思うが、そこには行政トップの想い、リーダーシップが大いに影響すると思った。特に、漫画はまだ文化芸術とみなされることが少ない段階であり、司書資格を持つ「マンガソムリエ」を土・日曜に配置して、好みに合った漫画の紹介や問い合わせに応じてくれるという企画を展開していることが特色であり、わが市も学ぶべきと思った。その延長で、描く＝体験・育成・交流機能といった取り組みも進めており、将来を見据えたマンガミュージアムの発展をしっかりと捉えている点は、わが市でも必要だと痛感した。ここのスタッフさんは「横手市さんは11万点もの原画をお持ちですごい」と言われたが、宝の持ち腐れにならないよう、頑張らねば！

## **3、菅原 正志 委員**

### **1 日目**

交流人口の促進、インバウンドの面から考えても、宿泊施設の充実は重要である。リノベーション事業の一環で簡易宿泊施設を増やすことは大きなヒントになると思いました。

### **2 日目**

視察先で地元増田まんが美術館の原画収集が賞賛され誇りに思いました。人口規模が全く異なる地域では、同じ利用率でも実数に大きな差異がある。増田まんが美術館だけでは交流人口の増加は見込めない。国内だけではなく、世界基準でも原画収集の価値を保ちつつ、観光の一環として当地のまんが美術館を組み込むことが肝要になってくるだろうと思いました。

## **4、奥山 豊和 委員**

### **1 日目**

ただ単に空きビルをリフォームするという単純な話では決してなく、「まちづくりの観点から、エリアの特性やどういった店舗が必要かということを考えなくてはうまくいかない。リノベーションを行うのであれば、社会的な貢献を含めて考えてほしい」という言葉がとても印象に残っている。

リノベーションは、まちづくりの手法にすぎない。しかしながら、リノベーション

まちづくりによってエリアが再生し、あるものを活かすことによって、そのまちの魅力というものが新たなステージに突入した時、このまちは、多くの人を惹き付けてやまない誇りの持てるまちになるのだろう。

**2 日目** 地元にあまり関係のない先生の作品の企画展を行うことにジレンマを抱えながらも、学芸員が自主企画する展示だけではあまりにも負担が大きすぎるということで、限られた人材と予算の中でいかにバランスよく魅力的な企画展を展開し続けられるのかが課題になっているようだ。高価な企画展を続けるのは体力的に厳しく、地方の博物館同士が協力して収集、事業展開をしていくことが必要である。

増田は原画という強みがあるように、それぞれの施設のカラーを活かし補い合いながら協力し、マンガ文化を基軸にした取り組みによって、地方創生の実現に共に歩んでいければと思う。京都精華大学を始めとする関係機関との連携をさらに強固にしながら、全国各地の漫画関連施設との間での人材交流も進めるべきである。漫画に触れることによって、社会や文化を理解できる、そんな場所にしていかなければならない。

## 5、本間 利博 委員

**1 日目** リスクをとる若者（これまでの権威のある人以外の本当に動ける人）の存在が必要

- ・エンジン リノベーションスクール（提案まで）エリアで考える
- ・シャーシ 戦略的都市政策（地域課題解決の合意）
- ・車輪 家守会社（リノベ事業推進会社）

EX.メルカート3番街 条件として参入しやすい価格、情報発信ができる、何かを作れる人がいる、エリアの価値を高めるという考え方 自治体が予算をつけたことで実施できた、リノベーションに補助金はない。

<要点>

大学の先生を巻き込む

意思決定を早めるために株式会社をつくること

地域でイベントの先頭に立っている人を探す

**2 日目** <要点>

- ・来場者の構成（若年層、インバウンド、愛好者等）から、立地条件は交通の便が良い場所が必要
- ・公共施設として採算性が望めないのであれば、複合施設とする検討が必要
- ・施設経営や展示内容について他の漫画ミュージアムと連携をして情報交換、人事交流をしていく必要がある

## 6、佐藤 忠久 委員

**1 日目** 商店街の再活性化を、遊休店舗を再活用することで目指した先進的な事例だった。その実施主体も民間の活力と資本で行われており、非常に合理的で、採算ベースに乗る見込みを立てた上で事業化していた。実践の中で人材を育て、持続可能な仕組みとして機能していることに、新しいまちづくりの方向性を見ることができた。

**2 日目** 駅前の1等地にあるビル1棟全てが、マンガなどのサブカルチャー関連産業で構成されていた。施設のコンセプトも、文化的要素というよりは「楽しむ」「体験する」「インバウンド」という側面に重点を置いており、明確な運営方針を感じることができた。原画保存と活用を通して、漫画の文化的な価値の発信をしていこうとする増田まんが美術館と性格的には異なると感じたが、来場者が飽きずにまた来たくくなるような施設運営をしており、長く愛される施設運営という点では参考になる点が多かった。また、学芸員や司書など専門職員の人材育成の必要性も強く感じた。

## **7、寿松木 孝 委員**

**1 日目** 北九州家守舎は、北九州市小倉北区を中心に行政と連携し街の再生を手がける民間会社であり、そのユニークな事業展開は大変に参考になりました。

行政はあくまでサポート役に徹し、資金調達を含め民間活力による事業展開に感心しました。また、その事業実施には優秀な人材が欠かせない事からリノベーションスクールを開講させ、人材の発掘もされており息の長い事業展開が必要であることも実感してきました。

**2 日目** 北九州市漫画ミュージアムは、漫画の芸術的価値の発信、何度来ても飽きない工夫をこらした施設運営をコンセプトに運営をされていました。

この施設は、人口の集中する小倉の駅前という中心部の民間ビルに設置されていますが、それでもリピーター確保が課題との事、当市の増田まんが美術館は、アーカイブ事業中心の展開ではありますが、リニューアル後の施設来場者数確保に大変参考になる事例と感じました。

## **8、遠藤 忠裕 委員**

**1 日目** 官民連携で作る町中の空き家活用と商店街活性化対策は、ある意味全国どこにでもある共通の悩みでもあるし、すぐにでも実行しなければいけない課題でもある。北九州家守舎は、平成24年に設立され、建物活用がされていた。あまり投資額をかけずに建物再生をはかり、テナントが入居しやすくなるなどの工夫がされていた。ただ、100万人都市である北九州市であるから進めることができたのではないかとも思った。横手市に当てはめて実行するには現実無理があると感じたところも多々ありました。ただ、基本理念は同じだと思うのでこれは参考になった。

**2 日目** 小倉駅に近く、立地が良いとまず思った。担当の方から横手市や増田まんが美術館に大変お世話になっているとのお話も伺った。逆に増田まんが美術館が進めている、原画収集は方向として間違いないと確信した。

残念だったのが、訪問直前に水害被害があり、訪問できなかった朝倉市の公共交通の取り組みが視察できなかったことだった。